

ふるさと歴史散歩

【第117回】 府中村の食文化 年中行事と食べもの

◆お月見

十五夜とは、秋の満月、旧暦の8月15日（現9月15日）の事を言い、最も美しいとされている。「仲秋の名月」とも呼ばれ、中国では仲秋節の行事が行われていた。観月の宴が日本に伝えられ、平安時代初期、延喜9年（909年）8月15日の夜、貴族の中で初めて行われた。

一方で、一般庶民の間にもこの夜の満月を迎える際、秋の収穫を祝う初穂祭が行われていた。農民の生活に深くかわる「こよみ」は月々の満月を基準になされていた。

江戸時代よりこの日を芋名月と言っていた。古来、芋が主食だった頃から芋と月見団子が供えられた。三方に供物を盛り、その脇の風に揺れる薄の間から月をめぐるのは、日本古来の景観風習であらう。薄と共に萩・撫子・桔梗・葛・藤袴・女郎花などの秋の七草を飾る。

十五夜の翌晩は月の出がやや遅れるので「十六夜（ためらう）」と言われた。平安時代、十五夜の制定された10年後（919年）の9月13日を「名月の夜となす」との断を下し「十三夜」とし、二度の月見が行われていた。豆や栗が供えられ、「豆名月」「栗名月」と呼んでいた。

府中村でもこの

日、里芋の採りはじめをし、皮つきのままで茹で、また、団子を作り三方にのせ、七草といっしょに供え縁側で月見をしていた。この日、根菜たっぷりの白味噌仕立ての月見団子汁を食べていた。

◆秋のお彼岸

彼岸の入りは9月21日、彼岸明けは27日で、春のお彼岸同様にお墓参

りをする。講頭の家に集まり、お寺さんの彼岸説教会が朝、昼、夕と行われていた。

府中村の人は、「おごり（ぜいたく）食いたくない」と言っただけで、おはぎを作りお寺さんや、ご近所に配り、互いに交換しあつて味自慢をした。また、「暑さ寒さも彼岸まで」と言つて衣替の準備をしていた。

府中町文化財保護審議会委員

秋山 榮子

お月見団子汁の作り方



【材料】 里芋、大根、人参、ごぼう、こんにゃく、干し椎茸、青菜、丸あげはん、団子粉、（調味料：いりこ、味噌、白味噌、椎茸戻し汁）

【作り方】 ①団子粉に水を少しずつ加え耳たぶぐらいの固さにこね一口大に丸めておく。②こんにゃくは一口大にちぎり、里芋は、一口大に切りどちらもそれぞれ茹でしておく。③干し椎茸は水に戻し、十文字の四つ切りにする。④根菜は乱切りに、あげはんはちよう切りにする。⑤いりこを入れた水を火にかけ、沸騰したらいりこを出し、根菜を入れやわらかくなるまで煮る。⑥里芋・団子・あげはんを入れ、団子が浮いてきたら、味噌で味をととのえ青菜をそえて椀に盛る。



正しいごみ出しにご協力を

府中町環境センター（八幡四丁目 1-1） ☎ 286-3266



ごみの特別収集

午前8時30分までにごみステーションに出してください。

9月16日（月/祝）	普通ごみ（月・木曜日収集地区）
9月23日（月/祝）	有価物（月曜日収集地区） 新聞・雑誌、ダンボール、衣類、ビン・缶・金属類

※環境センターへの持ち込みは受け付けていません。

ペットボトル・白色トレイ再生のためにご協力を

◆ペットボトル ①キャップをはずす。（キャップは普通ごみ）
②ラベルをはがす。（ラベルは普通ごみ）③中をよく洗う。

◆白色トレイ ①中をよく洗う。②乾かすまたはふく。

※白色トレイとは、表裏とも白一色のもの（色物、柄物は、普通ごみ）、つまようじが簡単に刺さるもの（発泡スチロール製）、半分に折ったときパリッと音がするものです。

※町内各スーパーにも白色トレイ回収箱があります。

ごみは決められた場所に出してください

各地区のごみステーションは、地元の町内会が日頃から自発的に清掃等維持管理を行っています。ご自分の住居地の指定日に指定された場所へ置くようにご協力をお願いします。

小型家電のリサイクル



小型家電（携帯電話、デジタルカメラなど）は、金や銅など、有用金属が多く含まれる一方で、鉛などの有害な金属も含まれます。また、希少なレアメタルも含まれています。このため、使用済み小型家電の回収・リサイクルを推進するため、平成25年4月1日から「小型家電リサイクル法」がスタートしました。府中町では、大型ごみから小型家電をピックアップしリサイクルしていますので、従来どおり大型ごみの正しい分別をお願いします。

ごみの不法投棄は、犯罪です！
不法投棄を目撃した人は、警察に通報してください。

ごみを出す時間に気をつけてください！
前日の夜や早朝に出すとカラスが見つけて荒らすことがあります。